

とうきょうすくわくプログラム「秋の色と自然物」(4歳児)



秋の色と自然物

(年中4歳児 10月~11月)

テーマ設定の理由

- ①「自然と関わる・探究する・運動する」ことを願い、教職員皆で会議を重ね10年前に園庭改修を行った。その当時植樹した木々も大きくなり、毎年、木の実や虫、草花が季節ごとに現れるようになった。
- ②今年度は「アートな視点からの表現・探究」に意識を高めて一人一人の教師が環境を用意し、保育を進めていることもあり、子どもたちの興味関心も“光”“色”などに向け、遊びを楽しんでいる様子がある。



③例えば

キャンパスに素手でペインティングし、宙に色が舞うような遊びをしたり、広いホールに敷いた紙の上を全身で絵の具を広げ、開放感を味わったり、食紅(青、黄、赤)と水を微調整しながら多彩な色を作り、光にかざしたりと。

- ①~③を踏まえ、実りの多い秋の自然を使って、子どもたちの興味関心を引き出しながら自然物を使った表現を楽しみ、そのなかで色に着目することで、子どもたちの感性に働きかけ、さらに遊びを豊かにしていきたいと考え、本テーマを設定した。



探究のプロセス(活動スケジュール)

1. 春夏秋冬って知ってる?秋ってなに?(秋のイメージを語る) それぞれの思いや考えを言葉にし、秋の季節のイメージを膨らませる。秋の色への関心を高めていく。
2. 秋の色を描いてみよう(秋の色を表現することを楽しむ) それぞれのイメージから秋の色を表現する
3. 園庭で秋の色を探そう 秋の色への関心から自然物を細やかに見る感性を働かせる

活動のために準備した素材・道具・ 環境の設定

- ・模造紙、絵の具、筆、イーゼル、ボンド
 - ・スモック
 - ・すりこ木、すり鉢
 - ・鍋
 - ・リサイクル素材(カップ、ペットボトルなど)
- など、次項からの探究活動に使用しているもの、環境

4. 見つけた秋の色を描いてみよう
自然物を見つめて感じたままに表現する

5. 秋の色をつくるいろいろな方法を探る



1, 秋ってなに? 秋の色ってどんな色?

まずは、子どもたちと会話をすることはじめました…
「はる・なつ・あき・ふゆって知ってる?」と保育者がきいたら
「今は秋だよ!」と子どもたち
「へー、どうして秋ってわかったの??」

子どもたちからは
「ちょっと寒い」
「暗くなるのが早い」と
気候の話から
「(葉っぱに) 緑と赤が混ざる」と
色の話。
そして、木の実や虫の話まで
伝えようとすることを受け止め、
豊かな言葉のやりとりが始まる

大人から見ると、
それは秋とはちょっと違うかな…と
思うこともありましたが、
共感しながら全て受け止め、
秋のイメージを膨らませていきました



2, 秋の色を描いてみよう

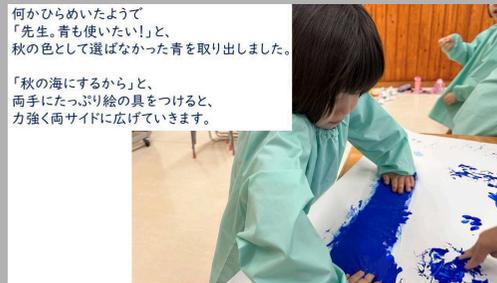
~それぞれのイメージから
秋の色を表現する~



黒で三角のドングリを描いた後に、
茶色の絵の具を指につけ、
その様子に面白さを
感じているようでした



どんどんどん…と
リズムカルに色をのせていました
手はリズムを刻み、その感覚を
楽しんでいるようでした。
目線は、重なっていく色を注視。
その色の重なりに夢中でした。



何かひらめいたようで
「先生。青も使いたい!」と、
秋の色として選ばなかった青を取り出しました。
「秋の海にするから」と、
両手にたっぷり絵の具をつけると、
力強く両サイドに広げていきます。



海を描くと、満足気に
手のひらをみせてくれました



模造紙に秋の色が広がってくると、
そっと、手のひらをのせてみていました
「秋がうつつ!」と手のひらを見て嬉しそうでした



子どもたちが表現した秋の色



秋の海
風が吹いていて、ちょっと寒そうで
砂は茶色くて 海も強いのだそう

秋のイメージを膨らませて、絵の具で思いきり表現すると・・・

- ・手の平に絵の具が触れる感触、色が混ざっていく不思議さ、面白さ
- ・指から垂れる絵の具の動きに心を奪われる
- ・絵の具で表現される色と模様とその変化に夢中になる
- ・スタンプから受ける手の感覚、音を楽しむ
- ・偶然の発見を楽しむ
- ・描いたものから秋のイメージを膨らませます

秋をイメージして選んだ色
その色の重なりや模様を楽しみ、どんどん描かれていくものに喜びを感じる。
感性を働かせながら描いた“秋”に満足し、
園庭に秋を探しに行くことに期待を高めていた

3,園庭で秋の色を探そう

～色への関心から
自然物を細やかに見る感性を働かせて～

秋って?秋の色って?と、
話題にし、絵の具で表現した翌日・・・

秋の色への関心、
秋を探しに行くことへの意欲を高めながら
いつもの園庭を探検



よ～!みつけるぞ～と、
意気込んで園庭に走っていきました



そして早速・・・
先生みてみて!
これ秋だよ!なんか模様がある!



園庭の隅の隅まで
小さなものにまで目が届いています

これってドングリのフタかな?
ドングリかな?



ここも、ここも!
(秋が)いっぱいあるの!(動画)

(葉を見ながら)
先生、緑と黄いろが混ざってる



キノコもあったよ!
(秋を探そうと、木の根元にも目を凝らして)
(動画)



やっぱり秋に虫がいるんだよ
葉っぱ食べてる
みてみて!



上を見上げて
葉がちくちくしていることを発見
(動画)



集めた秋を手
に、ど
んどこ
ろに“秋”を感じたのか、
それぞれのお気に入りはど
んなところなのか
振り返る時間をもちました
(動画)

自分の発見を嬉しそうに、
興奮気味に言葉にしていました



だって素敵な色がほしいから
(動画)



4枚がはいっているから

再び会話をしながら
自分の思いを語り、
友達の違いに触れます。
保育者は、共感したり受け止めたり、感じたこと
を伝えたりして過ごしました。

秋の色に着目して園庭を探検すると、
四方八方に眼を凝らし
自然物一つ一つの見方が細やかになり
感じ方が繊細になっていた。

上を眺めてみたり、
木の根元まで調べたり、
じっくりと隅々を観察したりする
姿があった

さらに、自然物を手にしながら、
色や模様にも気づき、
心が動き、
そのものに惹かれた理由や発見したものの面白さ、特徴などを
言葉にしていた。

いつもの園庭だけれども、
子どもたちが見ている世界が
いつもとは一味違うことを感じた。
秋の自然物に感性を働かせながら関わっていることを感じる。

葉の色や模様、質感、匂いなど。
『はっぱ』と表現していたものが、
『みどりのぶつぶつがある』
『オレンジも』
『茶色も』
『黄色もあるよ』
など、一枚の葉っぱの見え方が豊かになっていきました
そして、
発見した秋の色を、
それぞれに絵の具で表現してみるようになりました。

再び描く遊びへ

4, 見つけた秋を描いてみよう
～自然物を見つめて感じたままに表現する～



一日経って…
自然物に触ったり、匂いを嗅いだりしながら
発見した自然物の変化や改めて気づいたことなど
について語り合う
さらに、じっくり見る目、感性を引き出せるように



すると、たくさんのことを発見する子どもたち
秋を見つめる感覚がどんどん磨かれていくことを感じた

- ・茶色くなってる、4つ色が入ってる、緑と赤が混ざってる
- 色に着目する子
- ・柔らかかったのに硬くなってる、柔らかくなってる、めちゃくちゃクチャクチャする
- 感触に着目する子
- ・お皿みたいになった、ハートみたい、クルクルなってる、細くなってる
- 形に着目する子
- ・毒みたい、セロテープみたい
- 見立てる子
- ・点々がついてる、線がついてる
- 模様に着目する子
- ・線はアリの通り道、木から繋がっている道、葉っぱがちぎれないように守るための線
- 葉脈について考えを巡らせる子



そしていよいよ
描き始めました
色作りに夢中です



自分の感じた葉の感触を表現しようとしているのでしょうか



筆の動かし方が興味深い
葉を触ったときの感触や風合いを表現しようとしているのかな



「(葉脈は)葉っぱを守るための線、ちぎれないように」と、
発言した子。
しっかりとした葉脈を描いていました



感じていたことが表現できたのか、
描いたものに満足感を得ているようにした

Aさん:ちょっと薄いな~どうしようかな~
葉の色に近づけようとする気持ちを感じました。

Bさん:ここに黒い線があるから
目を凝らしてドングリを見て、少しの色や模様があることも発見していました。

さらに“秋”をじっくり見つめられるように。。。と願い、
描く前に振り返りの時間をもったことが生かされているように
感じました。



葉脈がピンク色の葉、黒色の葉
じっくりじっくり観察して自分の感性で
描いた葉脈



葉の黒い点をよく見て描いていました
ちょっとした葉の色の違いにも気づき、
描き分けています



葉脈と葉の色を描き
ちぎれたところは白のままに、
よく見ながら描いていました



子どもたちが目を凝らし
じっくり描き上げた“秋”は味わい深いものでした

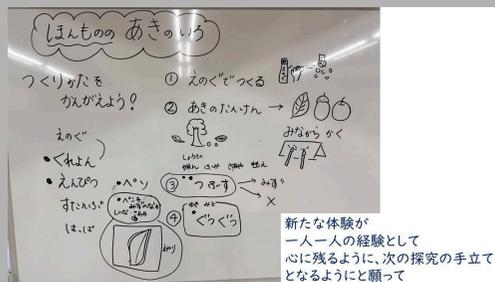
秋のイメージを表現することに没頭
↓
秋を見つけようと、園庭を探検
発見の楽しさ、驚きを味わう
↓
見つけた秋の自然物を五感でじっくり観察
さらなる発見を楽しむ
↓
色、模様、質感など
描くもの、描き方が変化

5、秋の色を生むいろいろな方法を探る

色鉛筆でも描きたい!と、一人の子。
すると、クレヨン、ペンでも描きたい!
……と、経験したことのある道具が次々と。
画材から離れ、色作りの視点を広げようと思い
「花の色を作るときってみんなどうやってるの?」と質問すると
すぐに、
すりこ木とすり鉢の方法を思い出しました。

子供たちの発想は、一つの経験や、いくつかの経験を合わせたものから
生まれてきます。
そこで、自然物を煮る方法を保育者から提案してみました。

すると、グツグツするとどうなるのか?やってみよう!
と、ぐんぐんと好奇心が高まっていくことを感じました。



新たな体験が
一人一人の経験として
心に残るように、次の探究の手立て
となるように願って

秋の色を作ってみることにした子供たち

ぐりぐり(すりつぶす)ことを話題にすると
ドングリでもできるかな?

できるよ!

できないよ…

と、予想しながらやってみることに



まるごとドングリでは、すりつぶせず、
皮をむいて、小さくちぎってグリグリと

水の量は？
ドングリの皮の大きさは？
皮の量は？
いろいろなことを考えながら、
指、手、腕の向き、力加減を感覚で調整しています



翌日、グリグリしたらドングリの色ができたことを
聞きつけた友達がやってきました

動画

たくさん時間が必要なことはわかったけど

とんとん
ぐりぐり
すりすり
どのやり方がいいんだろう??と、
水の色を見ながら
さまざまに試していました

そして、ドングリの皮だけでなく、
葉っぱをもってきたり
実もいれてみたり



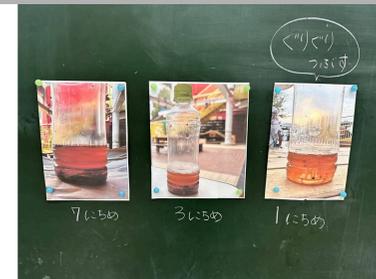
- 色の変化を注視 「薄茶色になってきた」「茶色になってきた～」「虹色の茶色になったらどうする～?」
 - 混ぜるものの試行錯誤 「これ入れたらどうなるんだろう?」
 - 葉や木の実の動き方に注目、面白さを発見 「葉っぱがついてくるんだけど～」
 - 友達との会話を楽しむ 「おれは上手だから、いろんな色を混ぜたらこうなるんだ♪」
 - 友達と役割分担 「ぼくがつぶすかかり」
 - 無言で集中
 - 潰し方の工夫 すりこぎをぐるぐるぐるぐる
- 様々な姿がありました



落ち葉やドングリをすりつぶして
出来た色。
微妙な違いに気付き、
混ぜたもの、
やり方、
道具など、
その色を作るためには
どうするのかを会話していました



数日前に作ったものと
昨日作ったもの
中には、つぶした実を
そのまま入れてみました
毎日色が変わるのか?
興味津々です



6,秋の色を生むいろいろな方法を探る

～グツグツしながら考え・試し・発見する
期待高まるこどもたち～

集まった子どもたちに
どうやって、グツグツするか尋ね、
一緒に考えました。
「1つずつ入れよう!」
「皮だけ入れようよ」
「皮を小さくして入れよう」
「小さくしたら色がなくなっちゃうよ」などなど

まずは、みんなでドングリの皮をむいて
グツグツする準備をしました。

そして
たくさん用意した
ドングリの皮を煮立った鍋に入ると…

あっという間に色がではじめました

「色ついた」
「ほらっほらっほら」
「とけた」
「とけるよ、とけるよ」

動画



色が抽出されてくる様子を
“とける”と表現していました

黄色になっている（色に注目）
臭つくさつ（匂いを感じている）
煙がでてる

爪楊枝ちょうだい（混ぜたいのかな）

もうオレンジになっちゃった
混ぜたい
早く混ぜたい～
混ぜたい
混ぜたい

お茶の匂いがする
抹茶の匂いがする
お馬の草の匂いがする

どんどん茶色くなってくる
ドングリ洗んじゃった
水の時と一緒にだ

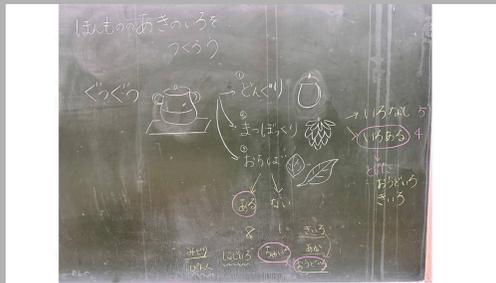
好奇心が高まった
子どもたちは、
いろいろな発見を
言葉にしています



色の変化を振り返ると
透明→黄色→オレンジ→黄土色→茶色となったこと

匂いを振り返ると
緑茶、抹茶、草、馬の草、うんちの匂いがしたと、

さらに、
他にもグツグツしたいと
・マツボックリ
・葉っぱ
・花びら
を試してみるようになりました。



早速マツボックリを
グツグツしはじめました

すると、
すぐに黄色に変化!

水につけるとカサが閉じ
ることを知っていた子は、
閉じたら色は出ない...と
予想していましたが

色が変化したことで
驚き、不思議がり
夢中になっていました。



続いて
葉っぱをグツグツしてみます。

その前に、
どんな色がうまれてくるのか
子供たちに聞いてみました。

すると、
さいろ、ちやいろ、みどり、ピンク、と
様々な考えが。
手元には、秋の園庭で拾った葉を袋に入れて持っているので、
その葉を見ながら
予想をしています。
そして、いよいよ実験です。



ドングリ
マツボックリ
落ち葉を
グツグツしたもの

ドングリをグリグリしたもの

並べて
色の違いを会話にしたり
もう一回試してみたい、
次は枝をグツグツしようと
提案したり
していました



秋の色と自然物 まとめ

探究のプロセスを振り返る

「どうして今が秋ってわかったの？」
からはじまる
秋のイメージを膨らませていく対話

伸びやかに
秋のイメージの色を広げていく
感性のままに表現することを楽しむ

秋色探し
色への興味から、
ものの見方、感じ方が湧えてくる



色の微妙な違いや
細やかな模様(色)に気付く

さらに、
匂いや形、質感、変化などにも
感性を働かせ、
様々な発見をする

見つけた秋の気に入ってるところ、
好きなどころを話す

言葉にすること
友達の話聞くこと
振り返ること
見つけた秋とじっくり向き合う



再び秋を描く・表現する
解放的な表現から、
細やかに表現・集中
観察しながら、
色味、形、模様などに
感性を働かせて表現しようとする

- 色を作る
 - ・感じ方によって十人十色
- 発見や不思議を表現しようとする
 - ・葉脈を力強く
 - ・柔らかな感触をふわっと
 - ・色を細かに変化させる
 - ・ベタ、サラサラ
 - ・筆の動かし方
- 自分の表現に満足する、喜ぶ



秋の色をつくるいろいろな方法を探る

子どもから：経験したことがあるものを提案(つぶす)
教師から：新たな方法を提案(煮る)

・潰し方を工夫する(ぐりぐり、ぐるぐる、トントン)
・潰すものを工夫する(ドングリの皮、落ち葉)
・水の量を調整する
・友達と役割分担をする

・予想する
・色の変化、温かさ、湯気の匂いなどを感じる
・煮るものを提案する(マツボックリ、落ち葉)
・色の違いを調べる



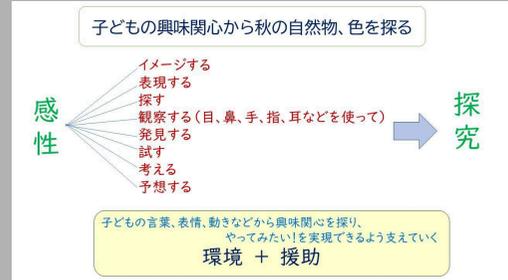
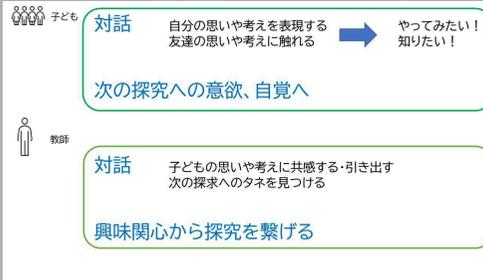
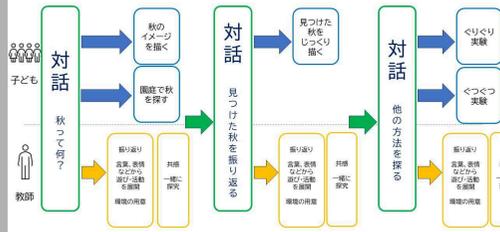
いつもの遊びの中にある
木の実や葉、枝などが、いつもと違って見える

いつもより感じよう、知ろう、考えようとする力が働く

色・模様・形・匂い・質感などについて、
新たな発見を楽しむ、喜ぶ、さらなる好奇心、探求心が
くすぐられる

見る目、感じる心が深まっていく

節目の対話が探求を繋げる



とうきょうすくわくプログラム「色と鏡～万華鏡の世界を探究する～（5歳…

「とうきょうすくわく プログラム」は、

東京都の推進事業として2024年度から
始まりました。

すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラムです。主体的・協働的な探究活動を通じ、子供の豊かな心の育ちをサポートします。

武蔵野東第二幼稚園では、2024年度に3つのテーマを設け、実践いたしました。

- 1, 色と鏡～万華鏡の世界を探究する～
- 2, 秋の色と自然物
- 3, 色と様々な表現

こちらでは、
「1, 色と鏡」の実践を
ご紹介いたします。

色と鏡 ～万華鏡の世界を探究する～

（年長5歳児 1月～3月）

テーマ設定の理由

今年度、新たにライトテーブルの遊びの環境を用意した。そこには、アクリル積み木や透き通る色水、セロハンなどを用意し、色の重なりや光に透ける色の美しさなどに関心を高め、光と色を使った遊びをさまざまに展開している。

万華鏡を取り入れ、光と色に鏡という素材が加わることで、鏡を通して見える世界の不思議さや面白さを感じながら遊びを展開し、探究を深めているのではないかと考え本テーマを設定した。

探究のプロセス（活動スケジュール）

1. 万華鏡プロジェクターを用意し、光と鏡で作り出す世界をそれぞれの感性で楽しむ。さらに、ビーズ以外の様々な素材を試すことで、鏡と光と素材が作り出す不思議さを感じたり、新たな発見をしたりする。
2. 万華鏡への興味の高まりから、万華鏡作りへ。今までの経験と手元にある万華鏡をもとに、必要な材料を考え、それぞれが作り方を予想し、材料を選び、試したり工夫したりしながら作り進めていく。
3. 万華鏡を作る中で「次はもっとこうしたい」「やり方がわかった!」など、体験したからこそ、もう一度試してみたい、という興味の継続からそれぞれに新たな工夫を加え、2つ目の万華鏡作りへ。

4. 万華鏡を作ることで発見したこと、気付いたこと（色と鏡、素材の種類や使い方による違いなど）を振り返り、伝え合い、共有する。新たに生まれた“やってみよう”を探究する。

5. もっといろいろなものを鏡を使って見てみたい!という興味の広がり。幼稚園のいろいろなところを鏡を通して見たらどんな世界になるのだろう、という疑問から遊びを展開する。

6. 万華鏡で見た世界を振り返り、伝え合い、共有する。

活動のために準備した素材・道具・
環境の設定

- ・万華鏡プロジェクター
- ・ミラーワールド
- ・LEDトレース台
- ・ミラーシート、アルミホイル、ビーズ、ビー玉
- ・リサイクル素材
など、
次項からの探究活動に使用しているもの、環境

1. 万華鏡からみえる世界を楽しむ
～いろいろな素材を試す面白さを体験～



万華鏡プロジェクターに筒状のケースを差し込み、
光を通して模様を投影する
この筒には、ビーズだけでなく、
いろいろなものを入れることができ、投影される模様を楽しむ



筒をくるくると回すことで
模様が変わっていく
その面白さ、美しさ、不思議さに夢中

まずは、ビーズから。
「すごい!すごい!」
「おー万華鏡じゃん」
「回してみたい!」と、興奮している様子



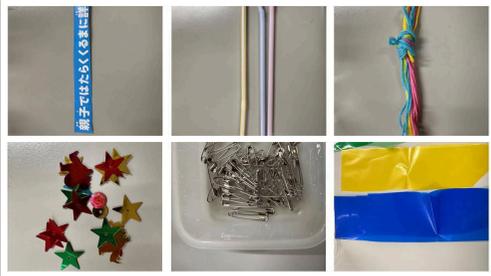
カエルの目みたい
クランパリン
ひまわり
雲の結晶
クジャクの羽
フロロウの目など、映し出される
模様をいろいろなものに見立てて
言葉にする
発見を伝える、共感する...

“模様はライトを当てたらどうなるかな”
問いが生まれ試してみる

ところがライトをあてると...
「あれ??見えない」
「あんまり見えないね」
「暗い方がいいんだ」と、
またひとつ新しいことを知る

ビーズじゃないのもやってみようよ...
と呟いた子の言葉から、いろいろなものを入れて
映し出してみるようになりました





麻子ではたらくるまに掛



選んだものを手に、順番に試す
どんなふうに見えるのか
期待を高めています



【星形のスターゴール】

「色が出ると思う」
「キラキラだし」
「やってみよう!」
(投影すると...)
「あれーなんて??」
.....
きっと色が出るはず
と思う気持ちからが
しばらくの沈黙
じっと天をみつめていました。

「あっ理!」
色がうつらないことが
分かったのか
形の発見を言葉にしてみました。



【ボタン】

『色出るかな〜』と尋ねると
「きになるー」と。

その後、映し出された模様をみて
『眼みたい』
「ガイコツみたい」
「イチゴ」
「ブタに見える」
「クマ」

色がうまく出ないことを知ると
他の発見を楽しむ姿が
ありました。



【セロハン】

「見えないと思う」
(投影すると...)
「うそーいけど色ついてる」
「(色)ついてる」
「すごい」
「すごーい!」

『なんで色がついてるんだろう』
と尋ねると
「光がうつってるんじゃない」
「光がセロハンの色を通したか
らじゃない」と。

“光が色を通す”という
キーワードが生まれる



【刺繍系】

「色」でないと思う〜
「キラキラしてないから」

(投影すると・・・)
「うすーい(色)、糸がうすいからかな」
「光が透けて見えるんじゃない」
「透けちゃうの」
「ちよっと赤と黄色かな」

セロハンの体験と
刺繍糸の体験を
繋いで考える



【はながみ】

「色出るかもしれない」
『どうしてそう思うの?』
「(紙が)薄いから」

色のてるもの、でないものを
いくつか体験していくと、
“光りを通すことで”
色映し出される”ことに
気づき始める
言葉にはしていないけれど
感覚で感じ始めている

いくつかの体験から
さっと色が出るはずと思い
「もっと暗くしてみよう」と、
色が見やすい方法を考える



【安全ピン】

だんだんと色がでないものと
出るものの違いを
感覚でつかみはじめたのか、
はじめから
「雪の結晶」
「蜘蛛の巣みたい」
「線がいっぱいある」「結晶」
「模様がボタンのときと違うね」
と、色を見つけようとする言葉は
なく、見立てを楽しむ。
さらに
「反対回ししてみよう」と、
新たな提案を。

ものによって、模様の作られ方が
違う面白さを感じていました。



【石】

「色はつかないと思う」と
はっさり一言。

透けていないし、赤、青などの色
もないことから確信している様子

「石は黒っぽいのに、どうして白
いところもあるの?」と疑問を感じ
た子がいると

「隙間があるからだよ」
「白は光のところ」と。



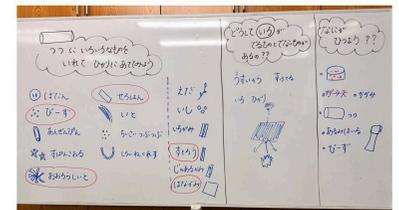
○感じたことや考えたことを言葉にする
答えを求めるのではなく
それぞれの感覚、感性で
感じていくこと、知ること、発見すること、学ぶことの時間を保障していく

○予想したことがはずれたり、かすめたりしていく
予想と違うと、その真相を知ろうと、探ろうと、
無言になり集中する姿もあった

○さらに、「色」に視点を置いて試し始めた遊びから、
いつの間にか、視点ややり方を変えて発見を楽しむ姿があった。

○子どもたちは常に探究者だと感じた。

2. 万華鏡への興味の高まりから、 万華鏡作りへ



今までの経験と手元にある万華鏡をもとに、必要な材料を考え、それぞれが作り方を予想し、材料を選び自分の万華鏡を作ることになりました。

子供たちが必要だと予想した素材をテーブルに置き、対話をしながら選び始めました。

子どものイメージを聞き取りながら、一緒に素材と道具を準備しました。



「筒が必要、トイレ紙ペーパーとか」
 →ラップ芯、ペーパー芯
 「のぞくところに透明が必要」
 『透明って、どんなもの？』
 →セロテープ、絵本補修テープ、ラップなど

「鏡も必要」
 「鏡は固いから、鏡みたいなやつ」
 「アルミホイル？」
 「それもいいけど、もっと鏡みたいなやつ」
 →アルミホイル、ミラーシート

「中にはビーズ入れたい」
 →ビーズ（大・中・小）、ビー玉、はながみ、セロハン

「ビーズを入れる透明の入れ物もないとき」
 →ビーズケース



どう見えるのかじっくり目を凝らして確認しているようです



3枚に分けたミラーシートに写る自分に面白さを感じているようです



海の中にきらきら光るビーズが見えるようにと、スズランテープをかぶせて

フィルムをはがすとより、鮮明に見える顔に驚きを感じていました



ビーズケースを筒に合わせて
見え方を確認しながら
鏡の位置を調整しています



セロハンを細かく切って
入れてみたいのだそうです

2つ一緒に見たら
どうなるか、試しています

4. 気付いたことを振り返り、伝え合い、 共有する

2つの万華鏡を作って発見したことを聞いてみました

- ・長いものと短いものを作った子
「長いと光が遠いからくらい、短いと明るいよ」
- ・ビーズの多いものと少ないものを作った子
「ビーズが多い方がきれい」
「ビーズが少ない方がきれい」
「少ないと粒が動くからきれいだった。模様が変わるよ」
それぞれ感じ方は違っていました

・小さな穴から覗くものと、筒から覗くものを作った子
「小さな穴の方がきれいに見えたよ」

・鏡を3枚、4枚、5枚と、変えて作った子
「鏡の形が違うから、見え方も違ったよ」

➡鏡の枚数が違うことで見え方が違う、と話題になると
どんなふうに見えるのか、
見てみたい!という話題から次の探求へと繋げていきました



鏡を合わせて
ビー玉や積み木を並べ、
見える世界を楽しむ(動画)

一つの積み木が映し出され
いくつかの積み木に見える

鏡を通すことで
模様が生まれる
見立てて楽しむ
模様の形を楽しむ

ビー玉が転がりながら
変化する模様を楽しむ

万華鏡のように、
鏡をくるくる回して
変化する模様を楽しむ





鏡の枚数によって
映し出される模様が違うのか
同じなのか試す姿



鏡の角を見つめ
その模様的美しさに
時が止まる

そーっとビー玉を動かし
模様の変化に夢中になる



立ったり、しゃがんだり
鏡を見る角度を変えることで
見え方が変化することに
気付き
どう変わるのかを
夢中になって試す姿

鏡の筒を持って移動しようとしたとき

新たな発見!
指が何本にも見え
笑いが止まらない
指を動かして
その面白さを伝えようと
「見て見て、これすごくない?」と。

発見を共有し、共感して
その面白さから
さらに
“やってみよう”が生まれていく



手を入れたら
面白かった!
顔はどうか?

「先生、顔はどうみえる?」
『わあすごい!』
「えっ?!見たいみたい!
写真撮って」
と言われ撮影。
写真を見て
大喜びでした。

次から次へと
新しい発見が生まれていく



「鏡を下にも付けてみたい」
「つけたらどうなる?」
と、次の“やってみよう”へ

ミラーワールドを使ってみました



ビー玉を角に置こうと
伸ばして手をみて
「手の花みたい!」と
発見した喜びを感じました

対面の鏡を覗くと
見える世界がどこまでも続いている!
「手が100本ある!」
「なにこれー」と
大興奮でした



”どこまでも続く迷路“

5. 鏡を通して見る世界を楽しむ



万華鏡からはじまった探究は
“やってみよう”と試し、考え、予想し、
それぞれの感性や感覚で
気付き、発見し
次の探求へと繋がっていく

鏡を通して小さな世界の美しさを感じ
鏡の形を変えて見える世界を楽しみ
さらに、鏡でいろいろなものを見てみたい!
広い世界への探検へと繋がっていきま



早速、
鏡といろんな世界の
探究へ
発見の連続に大興奮です!
(動画)



“自動販売機はどんなふうに見えるのかな”と、飛びつきました。



友達の描いた絵を覗くと・・・

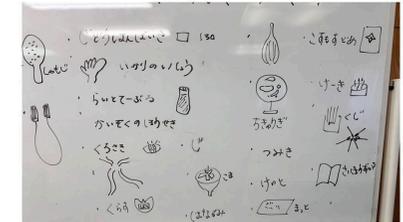
部屋に飾ってあった花を見ると・・・



「あっピアノはどうか？見たいみたい！」

ティッシュの箱の模様に気付き、
万華鏡のように回していました

6. 鏡で見たいろいろな世界 ～探究の振り返り～



まとめ（教師の振り返り）

年中4歳児と探究した「色と自然物」では、節目の対話を通して、教師や友達と（言葉、もの、動きなどの）やりとりをしながら、感じていることや発見したことを子どもたちが自覚し、次の“やってみよう”が生まれてきた印象があった。

年長5歳児と探究した「色と鏡」では遊びながら友達とやりとりし、気付きや発見を言葉にしたり、見せながら共有したり共感したりしてきた。次に“やってみよう”こと（探究の繋がり）も、対話だけでなく、遊びながら生まれてきた印象がある。

年齢や育ちによって、探究を支える教師の関わり方は違うことを感じた。

年長5歳児との探究においては、教師は、子どもたちの呟きや表情の変化、素材や道具の使い方などを捉え、次に必要になりそうなものを予想したり、やってみようことを振り返ったりする環境の用意や援助していくこと、一緒に探究者になることが大切だと感じた。

